



稿菴漫筆

五

陸
6
五

15
348
5



門部
號 348
卷 5

東 牖子卷之五

東 牖子卷之五

月令に云腐艸化して葉ふは亦中艸は芽根化して葉ふは
一より系葉の芽根化して葉ふは亦中艸は芽根化して葉ふは
か葉の芽根と頼政は七魂と恨トたりとねとてさるる
○士の妻女孫して沖新造といふといふやと此字をわけて
沖深窓と云ふなりと深窓はさるるのり沖深窓と云ふ
よ射して稱するなりと深窓はさるるのり沖深窓と云ふ
肩は長根致し楊家の深窓に書きてつとるなりと深窓は
沖深窓と云ふなりと深窓はさるるのり沖深窓と云ふ

明治廿六年十一月五日

坪内雄蔵氏寄贈

東京市豊島区
餘町百廿番地
坪内雄蔵

東 牖子卷之五

ちか〜〜り

○さらば有るをささるる後と有る行ふなり又去るに
 或方なり去人を或人なりあるをささるるにアカサの横流
 よて今於筑紫の俗歩りたりといへる言の海下てまの差を
 ○夜ふだといふ長秋の比奴僕として益の仕勢さふさし是
 諸工人を諸工を秘しはまよおしつゝたれぬ漏さといひて物を
 煮て食ふ後を夜漏しと云ふ年浪等よ出せり志懸渡かた
 夜ふだの夜地の轉せし之益を改へ延く短地と浦の夜延
 かな〜

○すいなるを柳さひいふがし〜〜

○老楽と湯桶別よ書し〜〜

老矣と書て〜〜

収がら〜〜

の字は〜〜

○俗間は警をたが〜〜

たが〜〜

と擱む〜〜

たが〜〜

○老楽と湯桶別よ書し〜〜

老矣と書て〜〜

収がら〜〜

の字は〜〜

○俗間は警をたが〜〜

たが〜〜

と擱む〜〜

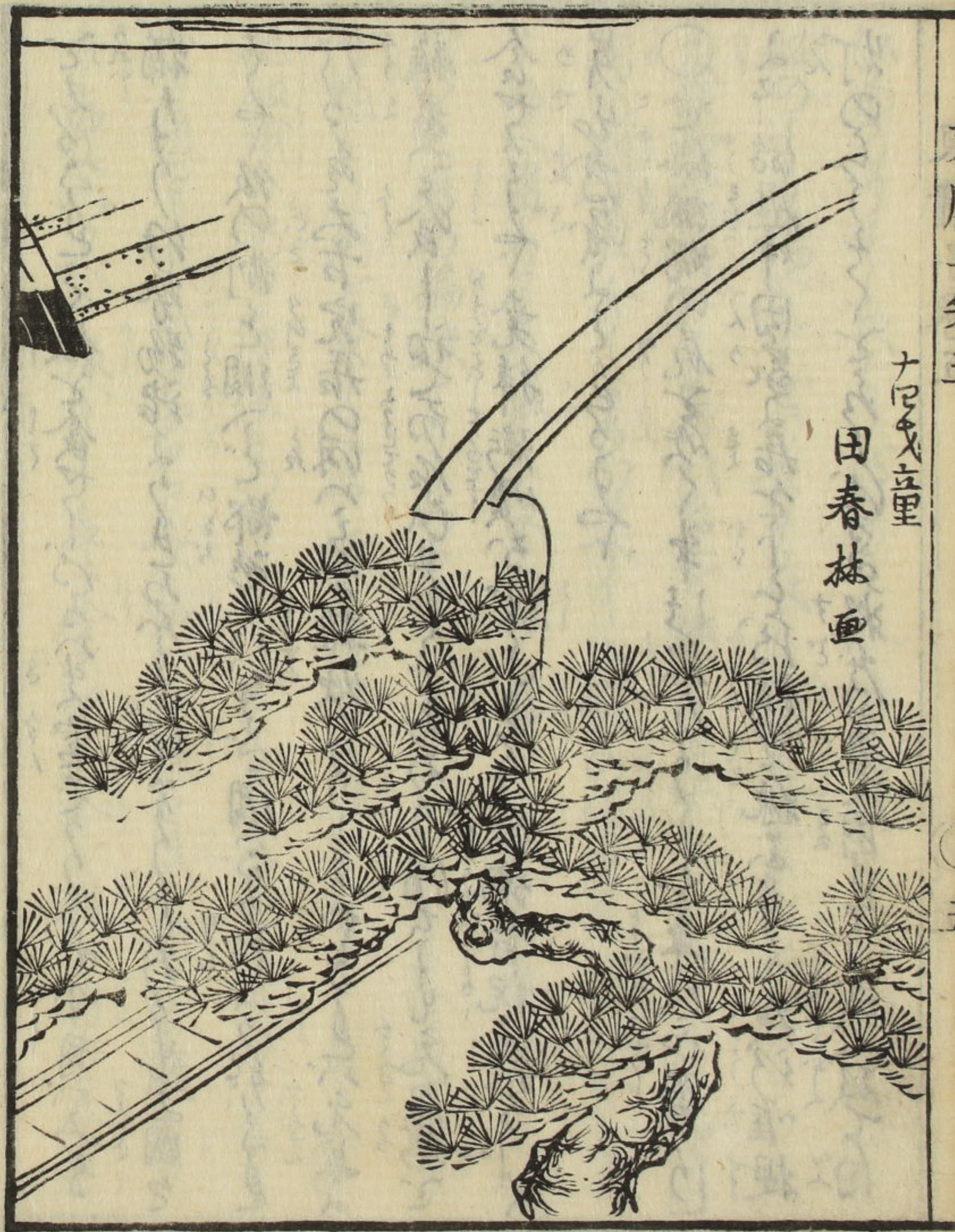
たが〜〜

子ゆゑれたたてふけりもあつてさうよの解^いたたまふ
 ○白くくはれくくしをまきと麗^{うら}かてくありく蘇^{すゐ}くと
 氣^きかり麗^{うら}をくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 けたりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ○我肉^{ごにく}の云^い葉^はく下^げ草^{そう}の末^{すえ}りしれチヤレくくくくくくくく
 せーくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 又モレくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 湊^{みなと}が向^{むか}くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ねくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 詰^{つめ}ふ私^{わたくし}雑^{ざつ}たり分^わて永^{なが}持^{もち}い他^た方^は棍^{こん}く野^のかりくくくく
 ー

○唐^{たう}音^{おん}くて英^{ひん}快^{かい}かるとくくくくくくくくくくくくく
 かりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 け換^かせーくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 後^ご路^ろ危^いの浪^{なみ}浪^{なみ}くくくくくくくくくくくくくくくく
 好^{こう}不^ふ好^{こう}の轉^{てん}結^{けつ}くくくくくくくくくくくくく
 ○糊^こと蘇^すまりなると蘇^すまりの及^{およ}くささる十二^{じふに}又^{また}くくく
 ての也^{なり}板^{いた}のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 そのくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 蘇^すまり血^ちをのくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ち編^ひ粽^{そう}糊^こと賞^うくくくくくくくくくくくくくくくく
 け編^ひ粽^{そう}糊^こと賞^うくくくくくくくくくくくくくくくく

ひわのつらとてどうばかり令伴編糰と云へ北米粥飯唯
 飯のつら湯がとてつかりとて枕糸紙と衣編糰とあるは
 衣よかひのつらとてひ免と粥も飯も定免がに梅糸
 粥の制昔の今とて多るぞ一南部の俗若粥揚菜とて
 とく用つるもの粥とて下(瀧)はりたるもの編糰がは
 いはと磨の編糰とてあは粥の食とて免か是は古等
 の粥とて粥と食とて源氏物語粥とてあつとてまの
 枕糸紙と粥の節供まつとてあると古れたとて枕糸紙と
 まのひたし一或云太古とて粥とて飯と後の制とて故の昔の
 兵衛とつらとて飯とて衣よ今の軍治令と糰を斯る分量

とあるとてとて飯と食とてつらとて官とてつらとて下(瀧)はり
 糰たりは焼物清よりとてつらとてびとつらとてあつとて上國と
 とて飯の制とて調(と)都路といまも調とて糰とてつらとて
 たりとて太古完居のほらとて雑炊たりとてつらとて元且と
 雑煮と食一初而依ひ免とてあつとて清とて元且粥と
 合せるとつらとて免拜粥噴かといえり既粥音祝といはれ
 たりとてつらとてつらとてつらとてつらとてつらとてつらとて
 ○世俗編糰の尻とて吹く半は糰たりとて年以や審り
 とも遊歴中因家と居をトとて内頂と糰とて夜以唯提
 灯のつらとてつらとてつらとてつらとてつらとてつらとてつらとて



十代又立里
田春林画

らうそくの尻と吹だしと扱ま後(試)らうそくの尻と
 吹くよ再び珍狐(ヤ)りふり(ヤ)るうと(ヤ)ひ(ヤ)る(ヤ)夫(ヤ)珍狐(ヤ)と人(ヤ)乃
 息(ヤ)のか(ヤ)つ(ヤ)り物(ヤ)と(ヤ)か(ヤ)る(ヤ)人(ヤ)の(ヤ)念(ヤ)ひ(ヤ)餘(ヤ)り(ヤ)の(ヤ)物(ヤ)を(ヤ)念(ヤ)と(ヤ)り
 ま(ヤ)ち(ヤ)一(ヤ)故(ヤ)の(ヤ)り(ヤ)の(ヤ)り(ヤ)夜(ヤ)の(ヤ)境(ヤ)境(ヤ)の(ヤ)尻(ヤ)と(ヤ)吹(ヤ)ぎ(ヤ)ら(ヤ)う(ヤ)一
 ○和(ヤ)吹(ヤ)の(ヤ)題(ヤ)と(ヤ)し(ヤ)た(ヤ)ま(ヤ)ま(ヤ)を(ヤ)り(ヤ)て(ヤ)稽(ヤ)古(ヤ)の(ヤ)め(ヤ)れ(ヤ)を(ヤ)題(ヤ)を
 昨(ヤ)も(ヤ)つ(ヤ)ぎ(ヤ)の(ヤ)海(ヤ)ま(ヤ)ね(ヤ)が(ヤ)う(ヤ)故(ヤ)な(ヤ)昨(ヤ)より(ヤ)汝(ヤ)自(ヤ)己(ヤ)の(ヤ)才(ヤ)と(ヤ)ぬ(ヤ)く
 伊(ヤ)上(ヤ)の(ヤ)こと(ヤ)を(ヤ)人(ヤ)け(ヤ)ら(ヤ)と(ヤ)直(ヤ)ま(ヤ)る(ヤ)な(ヤ)り(ヤ)扱(ヤ)ま(ヤ)る(ヤ)こと(ヤ)を(ヤ)題(ヤ)
 伊(ヤ)免(ヤ)と(ヤ)り(ヤ)今(ヤ)と(ヤ)至(ヤ)る(ヤ)物(ヤ)と(ヤ)し(ヤ)た(ヤ)ま(ヤ)も(ヤ)也(ヤ)平(ヤ)初(ヤ)雅(ヤ)の(ヤ)り(ヤ)た(ヤ)り(ヤ)
 半(ヤ)百(ヤ)の(ヤ)今(ヤ)ま(ヤ)を(ヤ)知(ヤ)ら(ヤ)る(ヤ)人(ヤ)の(ヤ)目(ヤ)よ(ヤ)出(ヤ)題(ヤ)せ(ヤ)ら(ヤ)う(ヤ)一(ヤ)和(ヤ)吹(ヤ)の
 勝(ヤ)間(ヤ)舟(ヤ)貞(ヤ)の(ヤ)こ(ヤ)な(ヤ)り(ヤ)客(ヤ)易(ヤ)の(ヤ)尻(ヤ)と(ヤ)扱(ヤ)ま(ヤ)る(ヤ)い(ヤ)ら(ヤ)う(ヤ)と(ヤ)し(ヤ)た(ヤ)ま(ヤ)の(ヤ)池(ヤ)溜(ヤ)ふ(ヤ)い

題(ヤ)小(ヤ)と(ヤ)ゆ(ヤ)れ(ヤ)る(ヤ)の(ヤ)と(ヤ)題(ヤ)一(ヤ)り(ヤ)行(ヤ)往(ヤ)修(ヤ)治(ヤ)事(ヤ)治(ヤ)と(ヤ)る(ヤ)一
 扱(ヤ)ま(ヤ)る(ヤ)こと(ヤ)を(ヤ)風(ヤ)雅(ヤ)の(ヤ)道(ヤ)と(ヤ)し(ヤ)た(ヤ)ま(ヤ)も(ヤ)風(ヤ)雅(ヤ)の(ヤ)道(ヤ)と(ヤ)し(ヤ)た(ヤ)ま(ヤ)も(ヤ)是(ヤ)雅(ヤ)か(ヤ)し
 酒(ヤ)と(ヤ)風(ヤ)雅(ヤ)の(ヤ)め(ヤ)れ(ヤ)ら(ヤ)う(ヤ)と(ヤ)し(ヤ)た(ヤ)ま(ヤ)も(ヤ)是(ヤ)雅(ヤ)か(ヤ)し(ヤ)漫(ヤ)文(ヤ)小(ヤ)雅(ヤ)
 へ(ヤ)正(ヤ)也(ヤ)一(ヤ)と(ヤ)し(ヤ)た(ヤ)ま(ヤ)も(ヤ)道(ヤ)と(ヤ)し(ヤ)た(ヤ)ま(ヤ)も(ヤ)道(ヤ)と(ヤ)し(ヤ)た(ヤ)ま(ヤ)も(ヤ)是(ヤ)雅(ヤ)か(ヤ)し(ヤ)漫(ヤ)文(ヤ)小(ヤ)雅(ヤ)
 墳(ヤ)伊(ヤ)州(ヤ)と(ヤ)ゆ(ヤ)る(ヤ)古(ヤ)の(ヤ)塚(ヤ)と(ヤ)る(ヤ)い(ヤ)ら(ヤ)う(ヤ)と(ヤ)し(ヤ)た(ヤ)ま(ヤ)も(ヤ)是(ヤ)雅(ヤ)か(ヤ)し(ヤ)漫(ヤ)文(ヤ)小(ヤ)雅(ヤ)
 法(ヤ)師(ヤ)の(ヤ)墓(ヤ)と(ヤ)流(ヤ)し(ヤ)ら(ヤ)う(ヤ)一(ヤ)反(ヤ)り(ヤ)て(ヤ)し(ヤ)た(ヤ)ま(ヤ)も(ヤ)是(ヤ)雅(ヤ)か(ヤ)し(ヤ)漫(ヤ)文(ヤ)小(ヤ)雅(ヤ)
 師(ヤ)と(ヤ)賜(ヤ)り(ヤ)し(ヤ)ら(ヤ)う(ヤ)一(ヤ)道(ヤ)と(ヤ)し(ヤ)た(ヤ)ま(ヤ)も(ヤ)是(ヤ)雅(ヤ)か(ヤ)し(ヤ)漫(ヤ)文(ヤ)小(ヤ)雅(ヤ)
 号(ヤ)を(ヤ)か(ヤ)と(ヤ)辞(ヤ)せ(ヤ)ら(ヤ)う(ヤ)と(ヤ)し(ヤ)た(ヤ)ま(ヤ)も(ヤ)是(ヤ)雅(ヤ)か(ヤ)し(ヤ)漫(ヤ)文(ヤ)小(ヤ)雅(ヤ)
 是(ヤ)雅(ヤ)一(ヤ)と(ヤ)し(ヤ)た(ヤ)ま(ヤ)も(ヤ)是(ヤ)雅(ヤ)か(ヤ)し(ヤ)漫(ヤ)文(ヤ)小(ヤ)雅(ヤ)
 い(ヤ)と(ヤ)し(ヤ)た(ヤ)ま(ヤ)も(ヤ)是(ヤ)雅(ヤ)か(ヤ)し(ヤ)漫(ヤ)文(ヤ)小(ヤ)雅(ヤ)

洗服治の字直き入なりとて多下一 潜潜といはてて点者
 たうねのそのふれまふも一 潜潜の事一 潜の事
 ○此頃流石の潜潜といふ小虚実の扱ひなり 伏実中の実よ
 落て唯云勿論の白うらふ一 潜潜といふこと一 小虚実の事
 下うらふといふ虚実といふは易の事一 初とて終をいふは上
 とて下といふは乾の初九は潜潜より未濟の有るは酒中を
 虚といふ実を説きり 老荘の寓言といふ海なること一 伏
 にく佩刀といふは柄頭小尻とて尾尻分るつり小尻より
 あるまふと帽といふは頭をいふは汚えといふは未表裏小虚
 実あり是は中尻有るは尻尻なり 尻頭有るは尻頭なりとて

自然の虚実といふは李白が詩よ 白髪の子文といふは小
 してと長とてる白髪なり 小虚とては強其似個長とて
 清人わがうは古今集の初より小虚といふ事ありとて是乃
 ありとて虚実をいふは竹をいふは竹をいふは竹をいふは竹を
 後が武年故とありてありて一 實と虚実の工夫は
 之をいふは古とて古今や唐詩のよの款と扱ふをいふは是は
 侍らば芳野の花とて一 見まふと一 知んたたり一 小虚は實
 猪田の桃と火中といふは一 藤や道小実といふは一 小虚は實
 凡雅の骨髓なりとて一 金とて一 物束の裏とて一 小虚は實
 首とて一 根の解とて一 針の小とて一 地とて一 小虚は實

ほむい虚かりとの虚実とよく分別せし十論は確とありや

唯 之條の櫓より見るとは涼らうか

!! 大茶やかうば崩也(櫓)のそと

是の之條の櫓と崩櫓と一様と大茶よりたるまかりけり
寂しきところより一とちあひはれ延が骨髓とやけふ延を
けうけうを打聽はけしや大茶の白と物有とよまゆの八景
風流の道具とはうごすしつて順流とよりうごたをゆき
る白と拙きたるふとどと下よは後者のう舞妓の秘言と
初日とるとの遠う七必要不し着と殊を衣裳とらうり
す七かりて定家卿を寂しきと素よりたとのゆきふり

てつてくも泳ぐと一 漕かるとちるちる延も素へしと

花かんとして不ひ車よりち極よひしてあそふとらう人
とら宣へしとちやね又白の突よのちかりとらう人

池潜 道むこの木槿を馬小舎りたり

実 道むこの木槿と馬の舎りたり

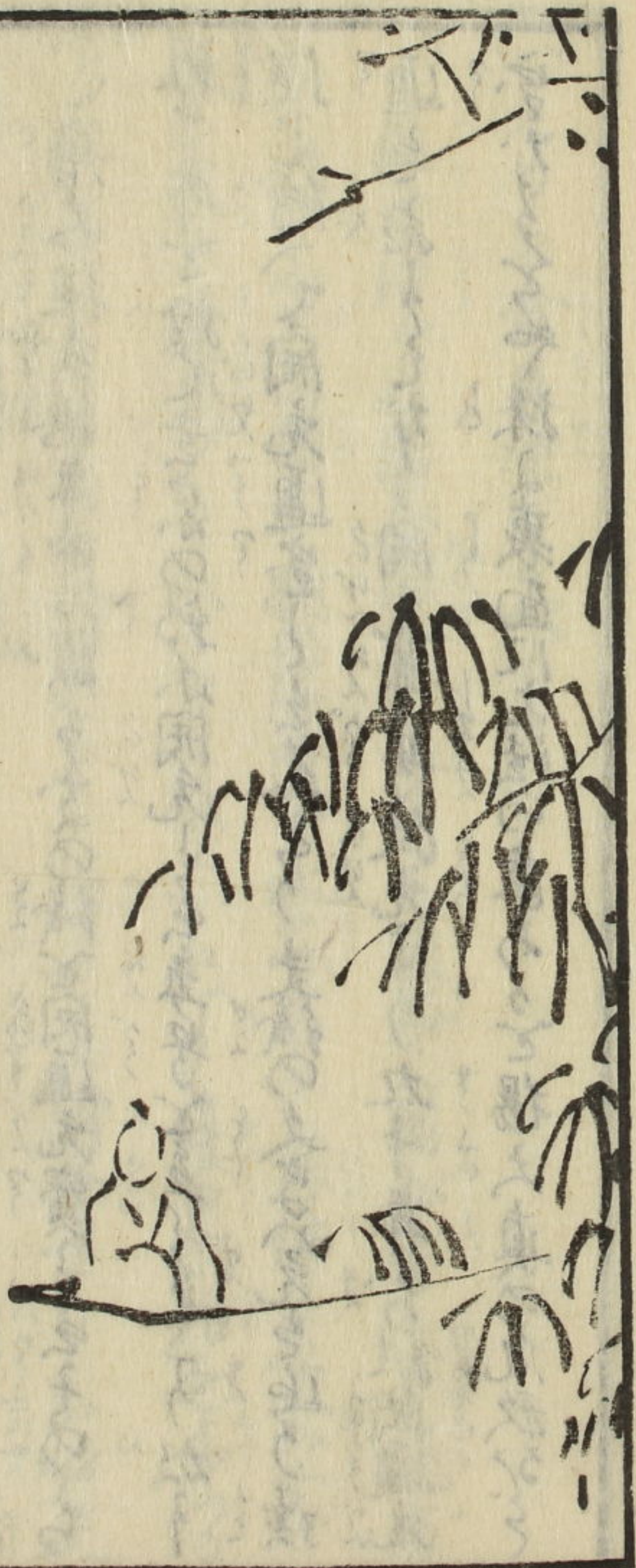
初の白とよふまゆとけりて激妙の域より古今を絶倒せし
白かり後の白い実とあて唯をかり今も流りてとよふまゆも定
うけぬ切字かしの下よは後者のとち着る秋か白もいふと
けりともあは地流うと美端の秋いども東花坊が古今十
福かどいふるとすかふと一まきとよはせんと遊ばるあり

とてよ十海の中に一字深茶活傳自る短六短とた部の秘書
とあり実とまと部したる物か一一二日月のる元坊ぐと
重しうらみとありと物書りりぐと

○常人伏して寝るものと病と長病伏して病との生くと云
しと相法の書して見ゆ一が他年病者と減るよ十と云
り度中が考えんやむたり一監書り北とて相書りて見ゆり
一まゆかま道とれを秘法はとも相法の書り元来素龍より
究所を定先部位皆格これよなばくやまくと云

○鷲鷲と越の國と産るものにてと産地と深く慕ふものを
故よ城を南枝葉胡馬水風漸と作よりな物ふま産の

のこぼが葉と作らぐめく鷲鷲と比卿小自物葉は内海韓魏
燕喬の國とてと南と一たる枝と葉とくよと故と慕
と自物と産るものと依ら羅強と故卿と見く信と依と云と
そのお唐詩の越中懐古と唯一有鷲鷲花と云一南越のち
かたて鷲鷲ふ寂寥たるものも作らぬと云と越はる
つら半と自物とてとあり海人等を鷲鷲葉と云と南
海のふけつる物より故よな物と産産産産と雨漸より
出らるる世の天と変るま巫たりと云と云と云と
○雛妓初て人の寝ととらひと水ととらと世半漢ととら
よのよ高貴の若物を取より同丸と初ととらと水とと云



捲九如山人

魯隱



又准して云々... 万葉集に未通女と書し... 人よまふえごる... ねとつて初て揚の羅妓... かなるべし... ねとつて初て揚の羅妓... かなるべし... ねとつて初て揚の羅妓... かなるべし...

○唐大徳年... 九十年と... 用元通... 通を... 室から... 珠と表面に... 法の象あると揚大真の... 凡般が...

いんろと金要逆が...

○羅也仲が... 國志演義と... 譯して通俗之國志... 七世と流布... の中仲小呂の國... 魏の張遠と... 氷岩... 懸とふと遠来... といえり... 故に... 譯せる人... 謝り... 謝り... 謝り... 謝り...

八花教と云ふ初圖や一鬼門の交ここれに神學者流ハ
 いそりやるや洋つみひらうセバ又或説かたはは唐鏡てんきやうの半はんなり中朝
 付古より皆國産こくさんといそりやる無抄州むせうしゅう今又の社の什物しつぶつ乃
 後のちと菱花あまぎの真鏡まきやうなり表面せうめんは法華ほふわ一七いちぢ大古おほこの絶品ぜつひんと云
 えて云いふやそと云いふは和鏡わきやうなり書局しよきよく未良みらう七代しちだいの頃ころと云ふは
 ○京師けいし東ひがしの系極通けいごくつう松預寺しょうよじハ浄土宗じやうどしゆのかこよ一七いちぢ年ねん有
 表日ひらひ以もつ併びやうの依よの大伴おほなはな寺てら門かどのちよままり一鏡きやうと賣家うりや有
 大以おほい併びやうとて珍めづるると云いふふ一い富臣とみおみ方の材まへと云いふふなるる後
 是こゝ大岡おほおか海東かいとう六波羅ろくはらの南みなみ方かた廣ひろ寺てら大以おほいと建た立たせたるる乃すなはち
 川の餅もち屋や大以おほい併びやうとて新あらたな店みせをたたたひて一い無む常じやう連れん終しゆなり

系極通けいごくつうの初はつれ餅もち屋やハ業わざと表あらわ松預寺しょうよじ通柳つうりゆうと傷やぶと云いふふ也なり持毫ぢごう
 一いの係けい自じ然ぜんと云いふふ者ものと表あらわつと在あるる一い百萬ひやくまんの材まへと云いふふ一
 酒さけと云いふふたる風流ふうりゆう家けと七傾城しちけいじやう禁きん煙えん也なりと云いふふ物ものをあるる自じ笑せうと云いふふ
 あらふら一い八はち文ぶん字じ原げんは魚ういと云いふふ一い実みは烟えん花かの二絶にせつ等とうと云いふふ大以おほい併びやうと云いふふ元げん素そ
 松預寺しょうよじ大以おほい併びやうの門かどからりしと云いふふ一い此こゝ餅もち屋やハ一い河かをあるる也なりと云いふふ
 表あらわ徳とくハ其その頑がんと云いふふ一い
 ○和州わしゅう郡ぐん山やまの池田いけだ武ぶと云いふふ人ひとと貞門ていもんの池いけ今いまと云いふふ一い乃すなはち
 一い其その代しろ古ふる烟えんと云いふふ一い酒さけと云いふふ一い身みの輕かろたた初はつと云いふふ一い金
 初はつはの才さいと云いふふ一い不ふ花かと云いふふ一い竹たけ花かと云いふふ一い慷慨かうがいと云いふふ
 一い七しちと云いふふ一い乃すなはちは一い竹たけ花かと云いふふ一い慷慨かうがいと云いふふ
 一い七しちと云いふふ一い乃すなはちは一い竹たけ花かと云いふふ一い慷慨かうがいと云いふふ

慶し七月の日に空を飛ぶとてその財を儲け彼等ら費は
 出への差ひさなるの身かたり貧家の奢とゆひなりと或方
 をを伴いしや殊に秀ゆ秀と交ら町家のをぞくを死
 技術あり彼清上人を是を本陣統といえり眞然うくと遊せり
 ○和州之福の布袋屋某と同國並ねの月夜子の口人なり
 年頃わがとたて或し一の長

夫かとの身一お禁のむとささひのやまのつと
 と縁海刺とていふ跡とまらうこびとほの秀休とて称
 譽と已と又縁ゆつるとのどとまよらうこび折をぐらとはを
 びいふ或した末跡とやうな冷泉の村の卿と清まうと

自縁とゆは又まうに卿指池の身一宣と称ゆつと
 折は人統どもあやうらげとゆりては彼男太又肝を指
 ちとてと懸せしが御人やとまうふ思がが清海刺と
 ち下をふたあうもかりや身とやとまうられで卿宣と
 いうまをかりとと懸れを指ひ

夫かとの身一お禁のむとささひのやまのつと

夫かとの身一お禁のむとささひのやまのつと
 折は人統どもあやうらげとゆりては彼男太又肝を指
 ちとてと懸せしが御人やとまうふ思がが清海刺と
 ち下をふたあうもかりや身とやとまうられで卿宣と
 いうまをかりとと懸れを指ひ



蘭林齋画



情話とてさうさう同々の様なり

○芭蕉七郊集の内その月集と狂解せし書せし是と
とらふ才との由

有明のま水は酒をほろくかえ

子けやとてさうさうやと酒店酒場がごとく見違ふなり此
をの字は家屋のやなげばよふ家のやなけりけやの字は
さふ才との大まかしくさすこのよふ家と酒いさうこれと
酒店と見なすこのよふ家并に左様なくおるははなり
此の字のやなけりさうさうなりさうさう酒店と見へるは
さうさうはさう有明のま水とさうさうはさうさうはさう
さうさうはさう有明のま水とさうさうはさうさうはさう

のま水といは清宵の清は物お波は花かはは葉のかかたつと
してはさうさうはさうさう物お波は花かはは葉のかかたつと
首の首さうさうはさうさう子孫は姓と物うさうと孫さうさう孫のさ
有明のま水とさうさうはさうさう司がさうさうはさうさうはさう
たうはさうさうはさうさうはさうさうはさうさうはさうさうはさう
とれははさうさうはさうさうはさうさうはさうさうはさうさうはさう
さうさうはさうさうはさうさうはさうさうはさうさうはさうさうはさう
酒家と見るとれさうさうはさうさうはさうさうはさうさうはさうさうはさう
とほさうさうはさうさうはさうさうはさうさうはさうさうはさうさうはさう
さうさうはさうさうはさうさうはさうさうはさうさうはさうさうはさう

溝さうしん所より舟

此解よりいれさうしん所より舟は明徳といふは按ては神代卷より
天の末賢本とまじりて初とて小賢ぶとて物傳よまたて
今世常流といふるしとてほやとて不及しとて又
さうしんを論祖のきとて漢賦いれ小賢なる住居の
はさうしん小賢といふなりとて鳴呼ふ人の流より一士乃
流とてあかりとてのそ

○七とて湯石麦の粒ふして不盡しくして序は易の地雷復
の粒なりとの二十字とて了るて了るて了るて了るて了る
一と述てとて画い天の粒とて大極の一既然より奏盤の月乃

之百六十一と將奏の八十一とて了るは後とて了るは前
或濟方の家司たり人試等の分録となりてに卿法後とて
しものくみそし小年しりれそしりふとて了るは玉のそ
はのわは後録ありて了るは前とて了るは後とて了るは前
あはれしてよみやとては毎歳あたりし小年男勢くうね育
あはれ若なりりれはたはたわいしとて了るは前とて了るは前
若教がたれとのとては我我家の大事と偶中やと録しとのが
とて了るは後とて了るは前とて了るは前とて了るは前
とて了るは前とて了るは前とて了るは前とて了るは前
うや ○奏盤の足のとて梔子散なりとて助とていふしり新

以かりしはうねてせぬ所那は酔は盤の表面の切子敷は
血濡して効えせし者の首を切るとある処うさといふ

○大雅堂と漢書と室しうせぬ士かり
侍ははたのくさ
士ははたのくさ
生澄
は漢書のかうとさとの二つをさくぐりぬ知余のまは藏血小

いふとどやと同りして片の明のま
此後冊系所乃儒家城の宗茂かりけり
此の年の五月十日
物なせしうしも事也又那と遊学のとたうしゆて

萬粉晒しとあすてくふれ来りか
くまてち門からねとあるをさくぐり

○茶と五味と兼り故に衆人皆之は死すは行を五味

清湯かりしといふや夫茶と水とを和して制して酒から
辛熱しててくして研ねてりは肥満せし醋と制しては
剛さとしてた毒をちびくと腹に生醴とふせとくは後先長初と
昔の粥とふせと鹹して脾とと肉穿しじ妙とて苦味と
尤も効くする苦味宿腫と能は力走しりゆは味まふま
と効とすしとまのるをさくぐりし茶のまふまはれし味
のまふまはれし地煖地はじりしとぶとれと茶効れたのまふ
びりら然と求じ採葉局ははせと割截せしは行人とや
○痘瘡と本朝は古よりして流傳するは流傳本とては死
と洋かりしとれが海はまぐりく園ははらもさくぐりあせるあさ

然ども、（一）初巻、（二）流石と、（三）いづも壹波の州肥後の又、
 比、（四）續の、（五）肥前の大村領か、（六）い昔より、（七）鹿瘡と、（八）い、
（九）いづも、（十）鹿瘡、（十一）海勢、（十二）東、（十三）いづも、（十四）他國、（十五）鹿瘡、（十六）流石と、
（十七）いづも、（十八）合と、（十九）い、（二十）ま、（二十一）感、（二十二）て、（二十三）瘡、（二十四）と、（二十五）病、（二十六）なり、（二十七）た、（二十八）有、（二十九）と、（三十）い、（三十一）同、（三十二）の、（三十三）連、
（三十四）これ、（三十五）と、（三十六）思、（三十七）て、（三十八）路、（三十九）傍、（四十）と、（四十一）ち、（四十二）於、（四十三）り、（四十四）い、（四十五）病、（四十六）者、（四十七）後、（四十八）亦、（四十九）と、（五十）求、（五十一）保、（五十二）養、（五十三）と、
（五十四）頭、（五十五）後、（五十六）合、（五十七）の、（五十八）者、（五十九）と、（六十）い、（六十一）づ、（六十二）も、（六十三）於、（六十四）半、（六十五）の、（六十六）一、（六十七）殘、（六十八）亦、（六十九）と、（七十）い、
（七十一）強、（七十二）て、（七十三）國、（七十四）と、（七十五）ゆ、（七十六）り、（七十七）い、（七十八）合、（七十九）と、（八十）い、（八十一）津、（八十二）村、（八十三）と、（八十四）傳、（八十五）傳、（八十六）し、（八十七）い、（八十八）及、（八十九）と、（九十）い、（九十一）國、（九十二）中、
（九十三）い、（九十四）流、（九十五）石、（九十六）と、（九十七）い、（九十八）と、（九十九）と、（百）容易、（百一）瘡、（百二）根、（百三）絶、（百四）つ、（百五）く、（百六）大、（百七）と、（百八）い、（百九）い、（百十）なり、（百十一）す、（百十二）が、（百十三）頭、
（百十四）後、（百十五）志、（百十六）州、（百十七）の、（百十八）同、（百十九）丸、（百二十）と、（百二十一）い、（百二十二）後、（百二十三）と、（百二十四）月、（百二十五）ら、（百二十六）り、（百二十七）是、（百二十八）胎、（百二十九）毒、（百三十）と、（百三十一）依、（百三十二）や、（百三十三）先、（百三十四）天、
（百三十五）の、（百三十六）遷、（百三十七）火、（百三十八）と、（百三十九）い、（百四十）る、（百四十一）や、（百四十二）他、（百四十三）國、（百四十四）の、（百四十五）水、（百四十六）と、（百四十七）い、（百四十八）感、（百四十九）せ、（百五十）し、（百五十一）者、（百五十二）國、（百五十三）中、（百五十四）に、（百五十五）充、（百五十六）り、（百五十七）い、（百五十八）今、（百五十九）や、

（一）い、（二）所、（三）は、（四）流、（五）く、（六）一、（七）國、（八）一、（九）瘡、（十）を、（十一）知、（十二）る、（十三）は、（十四）い、（十五）行、（十六）と、（十七）や、（十八）謝、（十九）氏、（二十）の、（二十一）後、（二十二）も、（二十三）又、（二十四）算、（二十五）なり、
（二十六）瘡、（二十七）瘡、（二十八）乃、（二十九）造、（三十）化、（三十一）之、（三十二）殺、（三十三）穢、（三十四）兒、（三十五）童、（三十六）之、（三十七）叔、（三十八）數、（三十九）非、（四十）可、（四十一）以、（四十二）常、（四十三）理、（四十四）測、
（四十五）也、（四十六）俗、（四十七）習、（四十八）之、（四十九）論、（五十）但、（五十一）去、（五十二）胎、（五十三）毒、（五十四）之、（五十五）所、（五十六）致、（五十七）故、（五十八）者、（五十九）謂、（六十）成、（六十一）胎、（六十二）以、（六十三）後、
（六十四）勿、（六十五）復、（六十六）再、（六十七）幸、（六十八）者、（六十九）有、（七十）謂、（七十一）初、（七十二）生、（七十三）之、（七十四）時、（七十五）探、（七十六）取、（七十七）其、（七十八）口、（七十九）中、（八十）血、（八十一）者、（八十二）有、
（八十三）謂、（八十四）懷、（八十五）胎、（八十六）十、（八十七）月、（八十八）勿、（八十九）食、（九十）醴、（九十一）厚、（九十二）煎、（九十三）燻、（九十四）滋、（九十五）喉、（九十六）者、（九十七）至、（九十八）於、（九十九）燒、（百）豚、（百一）煉、
（百二）砂、（百三）免、（百四）血、（百五）稀、（百六）豆、（百七）諸、（百八）方、（百九）言、（百十）人、（百十一）人、（百十二）殊、（百十三）及、（百十四）其、（百十五）試、（百十六）之、（百十七）百、（百十八）每、（百十九）一、（百二十）驗、
（百二十一）况、（百二十二）有、（百二十三）同、（百二十四）母、（百二十五）共、（百二十六）胎、（百二十七）竅、（百二十八）生、（百二十九）者、（百三十）而、（百三十一）稠、（百三十二）稀、（百三十三）迥、（百三十四）若、（百三十五）天、（百三十六）壤、（百三十七）又、（百三十八）有、（百三十九）一、
（百四十）時、（百四十一）氣、（百四十二）運、（百四十三）吉、（百四十四）凶、（百四十五）不、（百四十六）同、（百四十七）倘、（百四十八）遇、（百四十九）艾、（百五十）吉、（百五十一）比、（百五十二）屋、（百五十三）皆、（百五十四）安、（百五十五）若、（百五十六）際、（百五十七）艾、（百五十八）凶、
（百五十九）天、（百六十）札、（百六十一）如、（百六十二）麻、（百六十三）至、（百六十四）有、（百六十五）一、（百六十六）村、（百六十七）中、（百六十八）無、（百六十九）後、（百七十）兒、（百七十一）声、（百七十二）者、（百七十三）此、（百七十四）蓋、（百七十五）長、（百七十六）平、（百七十七）坑、
（百七十八）卒、（百七十九）南、（百八十）陽、（百八十一）貴、（百八十二）人、（百八十三）之、（百八十四）比、（百八十五）而、（百八十六）祿、（百八十七）命、（百八十八）醫、（百八十九）藥、（百九十）至、（百九十一）此、（百九十二）不、（百九十三）足、（百九十四）憑、（百九十五）矣、

○九傳云晋の畢萬首とけて切有て魏邑に封せしむるを
 魏とて今をト合の曰萬が後より大なる夫魏の大也萬之
 數の至るることあり是今の母トマニのいらしむるの
 たり叔畢萬が後果して文候にけりて魏の社稷を祀せり
 名を定はるがり國家將祀必有洋復其之宜也

東陽子卷五立大尾

書 林

京都寺町通佛光寺	河内屋藤四郎
江戸日本橋通壹丁目	須原屋茂兵衛
同 貳丁目	山城屋佐兵衛
同 貳丁目	須原屋新兵衛
同 四日市	山城屋政吉
同 本石町十軒店	英 大 助
同 下谷御成道	英 文 藏
同 大傳馬町貳丁目	丁子屋平兵衛
同 芝神明前	岡田屋嘉七
大坂心齋橋本町角	河内屋藤兵衛
大坂心齋橋筋博愛町角	河内屋茂兵衛

